

FZR750R OW-01

1989年/限定市販車

FZR750 (開発コードOW-74)は、1985年の全日本ロード選手権及び鈴鹿8時間耐久ロードレースに参戦するために開発された、ヤマハ発動機初の4ストロークのファクトリーマシン。鈴鹿8耐でケニー・ロバーツと平忠彦がコンビを組みこのマシンを駆り、ポールポジションから独走し、フィニッシュライン目前でリタイアという劇的な結果となった。

FZR750R (OW-01)は1980年代後半頃の4ストロークロードレースTT-F1専用のYZF750と近似した車体構成のスーパーバイク世界選手権参戦用のホモロゲーションマシンとして限定発売された。日本国内では当時としては高額の200万円の価格で500台の販売となったが、予約が殺到し、抽選販売となった。

1987年・88年の鈴鹿8時間耐久レースを連覇したファクトリーマシンYZF750の技術をフルにフィードバックした。

新設計のアルミ製デルタボックスフレーム、チタン製コンロッドや6速クロスミッションを採用した5バルブ・DOHC・並列4気筒エンジン、オーリンズ製リアサスペンションを採用した足まわりなど、レース用ベースマシンとしても比類のない高性能・品質を誇ったフラッグシップモデル。

